



289

若竹だよい



運営基本理念

報四恩

父母の恩・社会の恩

郷土の恩・大自然の恩

- 【私たちの願い】 ①よるこんで与える人間となろう ②いのちを大切にする人間となろう
 ③こころ静かに考える人間となろう ④使命に生きる人間となろう ⑤規律ある幸せ喜ぶ人間となろう

法人の社会貢献事業 ①四国八十八ヵ所巡礼者無料宿泊&お接待 ②講演会・シンポジウム等

【巻頭言】

支え合う社会

—一人で抱え込まないで—

園長 野田大燈

先月中頃に当若竹学園を含む社会福祉法人「四恩の里」としてシンポジウムと講演会を開催しました。

「四恩の里」は児童心理治療施設の若竹学園の他に、児童養護施設「亀山学園」と自立援助ホーム「なごみハウス圓」を運営していますので、亀山学園となごみハウス圓は姉妹施設と言う事になります。

どの施設も児童のための施設ですので、各施設間が連携して児童の為に支援を行っています。

児童施設ですので、保育士さんや児童指導員等直接各施設の児童の支援に取り組んでいるお兄ちゃん・お姉ちゃんと、日々の健康管理のための看護師さんや、一日三度の食事を提供してくれている栄養士さんや厨房担当の方もいます。

特に若竹学園は児童心理治療施設ですので、児童精神科医の先生やカウンセリングの専門家の臨床心理士の方もいます。

そこで「内部の子供たちばかりでなく、子育てで悩んだり苦しんでいる方もおられるから、施設で培った治療法や対処法を多くの方達に知ってもらえたら」と言う事から法人の社会貢献事業として行っています。

今年は会場を香川県の坂出市にお借りして坂出市後援事業として行いました。

講演は元香川大学心理学部教授に「一人で抱え込まないで」と言うテーマでお願いしました。

誰しも一人の力には限界があります。中には「本当に子育てで困っているけれど、恥ずかしくて困っていると云えない」「困っているけど、何処に、誰に相談してよいか判らない」と言う方もおられます。

「人」と言う字は二本の棒が支え合って成り立っています。一方が倒れると他方も倒れてしまいます。二人よりも「三人寄れば文殊の知恵」とも申します。

児童施設の職員は児童対応のスペシャリストです。特に近年は汎性発達障害の児童が増加傾向にあり、専門家にしてもその対応に苦慮している場合もあります。

ましてや一般家庭のお母様に専門的な知識を求めても難しいものがあると思います。

児童施設には何時でも気軽に子どもさんのことであればご相談にお越しく下さい。児童施設ではなくても民間で子育てや家庭の悩み相談を受け入れている団体もあります。

大切なことは「私、困っています」と素直に手を挙げて相談を受けることだと思います。

シンポジウムではパネラーとしてNPOで家庭支援をされている団体の理事長さんや子育て中の女性弁護士さん、そして元児童施設職員の専業主婦の方々が多方面から子育てについて話し合わせ、参加者の共感を得ていました。来年も開催しますのでご参加ください。

—了—

お別れ旅行



2 月の 8, 9 日とお別れ旅行に行ってきました。今年は 2 月の上旬と、例年よりやや早めの時期となり、肌寒いなかの旅行となりましたが、皆元気いっぱいでした。



がらも、ヤクルトについての豆知識 (ヤクルトは毎日飲んでも飽きないようにあえて小さめで作っている) や、工場の様子など、普段見ることのできない部分を見たり貴重な体験をすることができました。もちろん試飲もありました。



蛸老亭



1 日目は、お昼ご飯に蛸老亭で明石焼き作り体験を行いました。



たこ焼きより柔らかく、ひっくり返すのが難しいとのことでしたが、皆上手にひっくり返していました。



自分で作った明石焼きはとても美味しかったです。



一緒に食べたタコの釜めしやてんぷらも美味しいと子ども達に大好評でした。

UNIVERSAL STUDIOS JAPAN

2 日目は待ちに待ったユニバーサルスタジオジャパンでした。ホテルは例年と異なるホテルでしたが、バイキングのメニューが豪華でみな美味しく食べていました。特にクレープやアイスが人気でした。

全体で写真を撮った後、個別の班に分かれ、思い思いのアトラクションを楽しみました。



今年はいよいよチケットを準備しており開場と同時に入場出来た為、一般のお客さんよりも少しだけ早く入場することができ、人気のアトラクションにもすぐ乗ることができたようです。もちろん今年が一番人気は、新しくできたミニオンパークでした！

香川県に戻ってきてからはうどんを食べ、帰って来たことを実感しながら学園まで帰りました。



ヤクルト工場

その後、同じ兵庫県にあるヤクルト工場に見学に行きました。関西人のお姉さんの上手な説明やノリに驚かされた



青峰・若竹学級だより 2月号

学習の診断

2月14日、中学校1・2年生を対象に学習の診断（5教科）が行われました。

普段の学習の成果を発揮しようと時間いっぱい集中して取り組む姿が見られました。



調理実習

小学生は、チョコレートのお菓子づくりをしました。できあがったチョコレートは、中学生にも食べてもらいました。中学生から「ありがとう」や「おいしい」とほめてもらえて、とても喜んでいました。



教室からの景色の変化

若竹学園の増改築工事が進み、周囲を覆っていた幕がなくなり、教室から見える景色が変わりました。

久々に見る若竹学園の建物が、塗り替わってきれいになったことで、子どもたちからも歓声が上がっていました。

Before



After



受験

中学校3年生は、私立高校の入試も無事に終わり、公立高校を受験する生徒は補習や自習に更に力を入れて学習に励んでいます。

希望する進路を勝ち取ることができるよう、学校職員一同、応援しています。

バレンタイン

2 月 14 日はバレンタインで食育をしました。作ったものはもちろんチョコレート。学園の女の子たちが一生懸命作りました。とても美味しそうにできました。



学年末テスト

2 月は中学生にとっては勝負の月、学年末テストがある月です。9 教科、一年の集大成として必死に取り組みました。結果はその努力に見合うだけのものが出たと思います。みなさんお疲れさまでした！

石鹸作り

2 月の終わり頃から、3 月にある落成式の記念品として、手作り石鹸を作っています。透明な石鹸のもとと、色のついた石鹸のもとを組み合わせ、レンジで溶かした後にアロマオイルで香り付けをし、固めて完成です。子ども達の心のこもった石鹸は、色よし、香りよし、見た目よしと三拍子そろったとても素晴らしいものになりました。現在は学園でもその石鹸を使っています。若竹学園に来られた際にはぜひ石鹸に注目してください！



ここから...



こうなると...



出来上がり！

2月の行事

8・9日	お別れ旅行
11日	太鼓練習
14日	食育 バレンタインチョコ作り

在籍人数 平成 30 年 3 月 25 日現在

区 分		県内 (人)	県外 (人)	合計 (人)
男 子	小学生	4	1	5
	中学生	5	4	9
	その他	1	0	1
	計	10	5	15
女 子	小学生	0	0	0
	中学生	4	1	5
	その他	0	0	0
	計	5	1	6
合計		14	6	20

編集後記

お別れ旅行も終わり、年度の終わりも近づいています。それぞれの節目に向け、充実した時間を一緒に過ごしていきたいと思います。

セラピスト 平野佑馬

第 288 発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192

T E L 087-882-1000 F A X 087-882-1160

ホームページ <http://4on.or.jp/>

E メール wakatake@4on.or.jp

編集兼発行者 若竹学園 編集委員

発行責任者 野田 大燈